

令和4年度居武士小学校学校評価結果（後期）

項目No.	職員評価項目	前期	後期	関連保護者評価項目	前期	後期	関連児童評価項目	前期	後期
目指す子どもの姿	1 子どもたちは、3つの「あ」（気持ちの良い挨拶・自分の身を守る安全・生活にけじめをつける後始末）に努めている。	△	△	子どもは、家でも、学校でも、地域でも、挨拶や安全、生活にけじめをつける後始末に気をつけて生活している。	△	△	家や学校、地域でもよく3つの「あ」（挨拶・安全・後始末）をしている。	○	○
	2 基本的な学習ルールや聞く姿勢の徹底により、子どもたちの規範意識に高まりが見られる。	△	△	授業参観などから、学習や生活のきまりを守って学校生活を送ろうとする子どもの意識が見られる。	○	○	授業中は、次のことをがんばり一生懸命勉強している。 ・先生の話をしっかり聞く ・ともだちと話し合いをしながら学んでいる。 ・ノートをきちんととる。 ・学校生活のきまりを守っている。	○	○
	3 板書・ノート指導、読み書き計算の重視、言語活動の充実により、基礎基本の力や主体的に学ぶ力が育ってきた。	△	○	子どもは、学校での勉強が分かりやすいと言っている。 子どもは、読み書き計算を中心に基礎的基本的な学力や表現力を身につけている。	○	○	学校での勉強は分かりやすい。	○	○
	4 子どもたちは、朝読・昼読・家読に進んで取り組んでいる。	○	○	子どもは、読書に取り組んでいる。	△	△	朝読、昼読、家読に進んで取り組んでいる。	△	△
	5 子どもたちは、宿題や家庭学習を継続し、復習や予習、発展的な学習などに取り組んでいる。	△	○	子どもは、宿題や家庭学習に取り組む習慣を身につけてきている。	○	△	毎日、宿題や家庭学習に取り組んでいる。	○	○
	6 日常的な体力づくりにより、運動に対する意欲、体力に高まりが見られる。	○	○	子どもは、健康に気を配り、運動や遊びに興味を持って取り組んでいる。	○	○	家や学校、地域で運動したり、外で友達と遊んだりしている。	○	○
	7 子どもたちは、一人ひとりの活動の高まりを認め合うこと（共感的理解）により、自己存在感や有用感を実感してきている。	△	△	学校は、児童の悩みや問題等に親身に寄り、適切に対応している。 学校は、児童の個性や能力を適切に見取って評価し、それらを伸ばすように努めている。 子どもは自己存在感や有用感を感じ、学校生活を楽しんでいる。	○	○	困った時や悩んだ時、先生はきちんと相談にのってくれる。 何事にも積極的にチャレンジしている。 学校に行くのは楽しい。 自分のよい所を学習や生活に生かしている。	◎	○
教育活動等	8 月毎、教科毎にバランスのよい授業時数を確保し、適切に指導している。	○	○						
	9 研修活動に主体的に取り組み、指導方法の工夫改善に努めている。	△	○						
	10 道徳の時間はもとより、全教育活動を通じて道徳教育の充実を図っている。	○	○						
	11 集団の一員としての自覚、よりよい人間関係を築こうとする態度の育成のため、学級活動や学校行事、児童会活動等の充実を図っている。	○	○	学校生活や家庭生活を通して、自分や人のよさを認め、大切にすることが育ってきている。	○	○	仲間はすれやいじめをしないで、自分や友だちを大切にしている。	◎	○
組織運営	12 各分掌が連携を取り、効率的に学校運営を進めている。	○	○						
	13 教務を中心に学校運営に参画できている。	○	○						
環境育	14 教材・備品・図書等について計画的に整備が進められている。	○	○						
開かれた学校づくり	15 町内幼・小・中・高校と相互交流を深めるとともに、必要に応じて教育機関との連携に心がけている。	○	○	学校は、幼・小・中学校と連携をとり、交流学習や教育活動の充実に努めている。	△	△			
	16			学校は、学校運営協議会と連携して教育活動を推進している。	○	○			
教職員の育成	17 人事評価シートの目標が適切であり、改善に向けて努力している。	○	○						
	18 効率的な業務推進に努めている。	○	○						
	19 服務規律を遵守している。	◎	◎						
家庭教育	20			家庭では、朝食を必ずとることやゲームをする時間、学習時間など生活リズムについて話し合っている。	○	○			
	21			家庭では、子どもが家庭でも読書に親しむよう声かけをしたり、図書館や移動図書の活用を促すなど、読書環境の充実に努めている。	△	△			

\* アンケート各項目の平均を以下の計算式により算出し、◎～2.5以上 ○～2.0以上2.5未満 △～2.0未満で評価しました。  
平均＝（Aの人数×3+Bの人数×2+Cの人数×1+Dの人数×0）÷総人数（不明は除く）

## 教職員アンケート結果より

### I 成果

- ①板書・ノート指導、読み書き計算の重視、言語活動の授実により基礎基本の力や主体的に学ぶ力が育ってきたこと。
- ②子どもたちが宿題や家庭学習を継続し、復習や予習、発展的な学習などに取り組んでいること。
- ③研修活動に主体的に取り組み、指導方法の工夫改善に努めていること。
- ③教職員が服務規律を遵守していること。

### II 課題

- ①挨拶、安全、後始末の定着が十分ではないこと。
- ②基本的な学習ルールや聞く姿勢の徹底が十分ではないこと。
- ③子ども達一人一人の自己肯定感、自己有用感の高まりが十分でないこと。

### 今後に向けて

- ◎挨拶については継続課題です。自ら挨拶できるようにすることを目指して今後も家庭、地域と連携して指導を継続します。
- ◎聞くことの定着に向け、聞く姿勢の指導をすると共に教員の話す力のスキルを上げる研修に取り組みます。
- ◎教え伝える一方向の指導から、コーチング的な指導への転換を図り、自己肯定感、自己有用感の高まりを目指します。

## 保護者アンケート結果より

### I 成果

- ①学校は、児童の悩みや問題等に親身に応じ、適切に対応している。
- ②子どもは、学校での勉強が分かりやすいと言っている。
- ③学校は、児童の個性や能力を適切に見取って評価し、それらをさらに伸ばすように努めていること。

### II 課題

- ①3つの「あ」に気を付けて生活することが十分でないこと。
- ②宿題や家庭学習に取り組む習慣を身に付けていること。
- ③町内校との相互交流を深めると共に、必要に応じて教育機関との連携を心掛けること。
- ④家庭での読書の声かけや図書館の活用など、読書環境の充実に努めることが十分でないこと。

### 今後に向けて

- ◎挨拶指導については家庭や地域と協力し、三者が一体となって指導を継続します。
- ◎読書習慣の充実にについては、今後も家読の資料等をお伝えします。また、家読については、量を重視している現在の評価項目を見直します。
- ◎年間を見通し、計画的な町内校との相互交流、連携に取り組みます。

## 児童アンケート結果より

### I 成果

- ①家や学校、地域でもよく3つの「あ」（挨拶・安全・後始末）をしていること。
- ②困ったときや悩んだとき、先生方はきちんと相談にのってくれること。
- ③仲間はずれやいじめをしないで、自分や友だちを大切にしていること。

### II 課題

- ①先生の話聞くこと。
- ②朝読、昼読、家読に進んで取り組むこと。
- ③自分のよいところを学習や生活に活かすこと。

### 今後に向けて

- ◎成果として見られた点については、この評価が継続できるように指導を続けていきます。
- ◎話の聞き方については、聞く姿勢の指導をすると共に教職員の話し方のスキルアップに取り組みます。
- ◎家読の推奨を継続します。また、児童の読書活動の成果を適正に見取ることができる評価項目に変更します。

## 学校運営協議会居武士小学校部会より

### I 成果

- ①保護者や地域の願いを受け止め、子ども達の実態に応じた教育活動を行っていること。
- ②経営方針や教育活動、子ども達の様子などについて分かりやすく伝えていること。
- ③子ども達を安心して任せられる信頼できるところになっていること。
- ④学力向上の取り組みが計画的に行われていること。
- ⑤子どもたちに命の大切さなどの心の教育、挨拶などの基本生活習慣、社会のルールなど規範意識の育成に努めていること。
- ⑥子どもたちの体力の取り組みを計画的・意図的に行っていること。
- ⑦保護者や地域の方に行事の案内やお礼、訪問時の対応、電話の対応などきちんと行っていること。

### II 課題

- 職員と保護者との連携の場を増やすこと。

### 今後に向けて

- ◎児童、保護者、地域からの声を受け止め、適切に対応できるよう改善に努めます。